

## 57. 衛生加工処理布の汚点による防黴効果について

愛知淑徳短大 神谷い代子

○古田 幸子

奈良女子大 美和 正忠

1. 繊維製品に衛生加工処理を行った場合、種々の付着物によって、その効果が消失するものであっては、実用的な価値があるとは言えない。そこで着用中に付着すると考えられる、調味料・嗜好飲料の汚点を取り上げ、黴発生に及ぼす影響、及び衛生加工処理を行なった布について、汚点付着後の防黴効果について検討した。

2. 用いた布は、繊維別に5種類の平織布、衛生加工剤としては市販の薬剤3種、汚点として、砂糖、酢、ウスターソース、醤油、酒を用いた。汚点の付着は、各汚点液1:20の浴比で10分間浸漬後脱水した。黴試験は、あらかじめ30分間紫外線灯にて滅菌した無菌箱の中で、黴を接種し、その生育状態を観察した。そして、汚点浸漬しない衛生加工布、非加工布にも黴を接種し汚点浸漬前後の防黴効力について比較検討した。

3. 汚点を付着させた場合、汚点の種類にはあまり関係なく、黴の生育が認められたが、衛生加工処理布においては、汚点を付着させても相当の防黴効力を示し、衛生加工剤のみの処理布と比較した場合殆んど差がなく、汚点付着後も防黴効力のある事が認められた。